

## 商業教育を学んで見えてきた私の夢

黒木 琴海

私の学校は、今年男子ハンドボール部が岩手で実施されたインターハイで、初の全国制覇を為し遂げました。今、全校生徒に「秀峰ブランド」を作っていこうと新設4年目の学校として課題に取り組んでいる中での快挙でした。このような環境の中で、全校生徒が自分にできることを「今精一杯やる」夢の実現は自分で、これが生徒一人一人の自覚となり、私自身も本校に入学後、自然に精一杯頑張ろうと思うようになっていました。

そんな中、昨年初めて参加した宮崎県情報処理競技大会では、団体・個人の部ともに準優勝でした。ただ、個人の部の1位は私と同じ2年生で、私は1点差で負けてしまったので、もっと高い意識をもって練習していれば優勝できたのではないかととても反省しました。「苦手分野を克服して、絶対優勝する」。このことと、高校生では難関中の難関と言われる応用情報技術者試験に合格することがその後の目標になり、部活動に対する取組等も変わっていきました。部員全員で苦手分野の復習と半復練習に取り組む日々が始まりました。私は、データベースの分野が特に苦手だったので、その克服に、1日8時間の勉強を自分に課して、学校では夕方4時から8時まで先生に指導していただき、解らないところは質問し、自分でも家で4時間参考書が磨り減るまで取り組むという努力を重ねていきました。

昨年の思いを胸に私は3年生になり、再び情報処理競技大会の県大会の時期を迎えました。今年の県大会は私の通う小林秀峰高校で開催されたので、大会当日は多くの先生や補助員をしていたクラスメイトなどが応援をしてくれました。1年前よりも多くの知識を身に付け、練習を続けてきたおかげで確かな自信を持って競技問題に臨むことができました。そして迎えた結果発表。団体優勝校として名前を呼ばれたときは一瞬信じることができず、前に出て賞状を受け取る時にやっと実感がわいてきました。また、個人の部においても念願の優勝することができ、今までの努力が実ったのだととても大きな喜びを感じることができました。そして7月31日、いよいよ全国大会に出場しました。問題を解いてみると、去年よりスムーズに解くことができ、確かに実力が上がっていることを感じました。しかし結果は、団体が15位で終わり、個人の部では25位で、優良賞をもらうことはできませんでしたが、10位以内を目標としていたので、とても悔しい結果となりました。やはり1年間の努力では大きな「夢」は達成できないのか、あれほど打ち込んだ学習の日々も無駄だったのかという、「無力感」に私は、鬱状態に陥りました。

そんなとき、6月に受けていた応用情報技術者試験の合格発表がありました。この試験は、私の部活動の目標の一つとしていたものでした。とても難しい試験で、宮崎県の商業系高校では、もし合格すれば5年ぶりの合格者となる試験であると先生から聞いていましたし、全国大会で散々な結果を受けた後だったので、絶対に自分には無理だと思っていました。インターネットで確認すると、結果は見事合格でした。今までの努力の集大成としてこの試験に合格できたことで、自分に自信を取り戻すことができ、さらに知識を深めたいという思いもより大きなものとなりました。

私は今、情報学部のある国立大学に進学を目指しています。商業教育で学んだことを基盤にコンピュータやモバイルなどの情報通信機器について、その役割、機能、データ通信

技術、設計から保守及び安全対策に関する知識と技術を専門的に学びたいと思っています。

さらに、大学のサークル活動や地域の行事及びボランティア活動にも積極的に参加しコミュニケーション能力を高め社会が求めるネットワークシステムがどのようなものか体験的にも学習していくつもりです。そして、その知識を生かして社会に貢献したいと思います。このような、私の生き方がいつか、「困っている人々の力」となり役に立つのかもしれないと、想像するだけでワクワクしてきます。それが今の私の「夢」であり私の将来の希望なのです。

私は、商業教育を学んで、人生の目的・目標を得て、努力する喜びを知ることができました。また、部活動を通じて得た友人との信頼関係や支えてくれた多くの人たちの絆、そして目標を与えてくださった先生方に深く感謝しています。次は大学進学という目標を達成できるようこれまで以上の努力を重ねていく決意です。